

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24320060

研究課題名(和文)ヨーロッパ文学の可能性と限界 統一性と多様性の相克をめぐる地域文化的研究

研究課題名(英文) Possibilities for and limitations of European Literature -- Literary and cultural researches in area studies with respect to conflicts between unity and diversity

研究代表者

石井 洋二郎 (ISHII, YOJIRO)

東京大学・総合文化研究科・教授

研究者番号：90134402

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：近・現代のヨーロッパ文学の中に、自国や自らが属する地域に強く根を求めようとする傾向と、自国や地域を越境して外とつながろうとする二つの傾向が、矛盾のうちに共存していることを、アングロ・アイリッシュというアンデンティティーをもつ、W.B. イェイツの独特の文化的帰属意識や、晩年愛国詩人として知られたが、広くヨーロッパ文学を吸収して同時代の世界文学に影響を与えた、イタリアのG.ダンヌンツィオの例などを通じて確認した。また、現代フランスにおいて、国民文学やヨーロッパ文学の枠組みすら越えようとする、「ポスト=エグゾティスム」の試みが存在していることが、作家A. ヴォロディーヌ氏の講演を通じて明らかになった。

研究成果の概要(英文)：We demonstrated that there have been two main tendencies in post-enlightenment modern European literature that co-exist though opposing each other. The first tries to find its root in a nation or an area one belongs to. The second aspires to transcend the space one belongs to. Two interesting cases of these two contradictory tendencies were revealed in W.B. Yeats and Gabriele D'Annunzio. In the former it was proved how uniquely and complexly W.B. Yeats's sense of belonging was culturally layered despite his Anglo-Irish identities. In the latter, it was detailed how D'Annunzio's interest in broadly defined European literature firmly had its place in the mind of the fervently patriotic Italian poet.

In addition, we showed that there is a third tendency that seeks to transcend national literature entirely. One example of this tendency was found in "post-exoticism" in current French literature, as described in the lecture by Antoine Volodine, a French novelist.

研究分野：フランス文学・フランス地域文化論

キーワード：イェイツ ダンヌンツィオ ロマン主義 セルバンテス ヴォロディーヌ ジェンダー ドストエフスキーマチャード

1. 研究開始当初の背景

EUの経済的統一がひとまず達成されたあと、ヨーロッパにおいて、文化的統合も同様に進められていくのか。言語を基盤とした文学が国民文学という形をとるのは自然であるとして、それが一国・一地域の壁を破って広がることは、いかにして可能か。この問題を、イギリス、フランス、ドイツ、ロシア、スペイン、イタリアの各地域を主たるフィールドとする9名の文学研究者が連携・協力し、多様な文化的背景をもつ各国の文学作品や文学理論を比較検討することによって、21世紀にふさわしい文学研究のありかたを提示しようと考えたことが、この研究の発端であった。

2. 研究の目的

「多様性における統一」がEUの標語である。EUの経済的統一がひとまず達成され、更に政治的・社会的統一が進められていく中、文化面での「多様性における統一」はどのようにして実現されるのか。本研究はこうした、ヨーロッパにおける文化の多様性と「一」なるアイデンティティの摸索の共存という側面に焦点をあて、「ヨーロッパ文学」の可能性・不可能性を地域横断的な観点から総合的に考察しようとするものである。ヨーロッパ「連合」という、この稀有の事象に、文学を核とした共同体的観点からアプローチすることが本研究の目的である。

3. 研究の方法

9名の本研究従事者は、それぞれが専門とする地域に関して、以下の方法で研究を進めた。

- (1) 展示会・講演会の開催、海外からの研究者・作家の招聘：国民文学とその超克の具体的様相を知るために、個別的对象を取り上げて、展示会を開催し、関連する講演会を行う。
- (2) 海外における資料調査、海外研究者との意見交換：本研究メンバーが毎年数名海外渡航し、本テーマに関する資料調査・海外研究者との意見交換を行う。

(3) シンポジウムへの参加・研究会の開催：本テーマに関連するシンポジウム等に参加する他、本研究メンバー相互の意見交換の場として、研究会を開催する。

(4) 各メンバーの個別的研究：本テーマに関し、本研究に従事する各メンバーが、それぞれの方法で研究を進める。

4. 研究成果

(1) 展示会・講演会等（主たるもの）

① 2012年5月12日～同7月1日に、東京大学駒場美術博物館において特別展示「W.B. イェイツとアイルランド」を開催した。アイルランド国立図書館、ダブリン市立美術館、東京大学図書館の協力を得たこの展示は、20世紀英語文学を代表する詩人・劇作家の一人であるイェイツの文学者としての軌跡と同時代のアイルランド社会のありようを数多くの文書と視覚資料で概観した。

② 「ダンヌンツィオに夢中だった頃—ガブリエレ・ダンヌンツィオ(1863-1938)生誕150周年記念展」を2013年10月19日から12月13日まで東京大学駒場博物館において開催した（共催ヴィットリアーレ財団ほか）。期間中は演奏会、国際シンポジウム、ギャラリートーク、講演会、特別講義、主題講義等多くの関連行事を行い、総入場者数は4237人を数えた。

③ 2015年1月に、フランスから、作家アントワーヌ・ヴォロディーヌ氏を招聘した。氏は、自らの小説を、「フランス語で書かれた外国文学」と名付けており、国民文学とその超克という、本研究のテーマに、貴重な視点を提供してくれた。1月8日に、氏への長時間のインタビューを行った他、1月16日には、東京大学駒場キャンパスで、「ポスト-エグゼティスム：総括と展望」と題する氏の講演会が行われた。

(2) 海外調査等

メンバーのほぼ全員が、本研究遂行期間中、一度または数度海外に渡航し、図書館での資

料調査、並びに、海外研究者との意見交換を行った。

(3) シンポジウム等（主たるもの）

①2014年6月28日に開催された東京大学総合文化研究科シンポジウム『地域のかたち記憶のかたち』に、本事業研究分担者2名（鈴木、斎藤）が参加し、ヨーロッパ文学と記憶に関する発表を行った。

②本事業遂行中に2回の研究会を開催した。1回目（2013年9月）の研究会では、中尾が、イエイツ展についての詳細な報告を行った。2回目（2015年3月）の研究会では、アルヴィが、イギリス・ロマン主義について発表を行った他、鈴木、足立、竹村、村松が研究報告を行なった。

(4) 個別的研究（各メンバーの研究の具体的な成果については、「5. 主な発表論文等」で示す）

①研究代表者石井：フランスの著名作家の肖像をめぐる考察を連載論文にまとめる一方、19世紀ヨーロッパの作家や芸術家たちと密接な交流のあった写真家ナダールに関する調査を行ない、その成果を一連の論文として発表した。

②研究分担者中尾：W. B. イエイツ、ルイー・マクニース、シェイマス・ヒーニー等アイルランド詩人の帰属意識と移動との関わりを研究し、成果を論文として発表したほか、博物館展示、講演会開催、学会発表を行った。

③研究分担者アルヴィ：イギリス・ロマン主義文学とヨーロッパ（イギリスを含まない）、ヨーロッパを超えた地域に関する影響、宗教と文学の関係をめぐって研究し、その成果を学会で発表し、シェリー協会会報に寄稿した。

④研究分担者鈴木：1) フランスにおける文化・文明の概念の変遷 2) フランス国家のアイデンティティ形成 3) 文学と政治の関係の3点をめぐって研究し、その成果を論文として発表した。また、シンポジウムでの発表も行った。

⑤研究分担者足立：1) ヨーロッパの神話、文学テクスト、映画におけるジェンダー、と

くに女性に関する描写 2) ホモソーシャルな社会の成立過程 3) 男性中心主義的物語を異なる視点から読解する可能性の3点をめぐって研究し、その成果として2編の論文を発表した。

⑥研究分担者安岡：1) ロシア文学における「東」と「西」のテーマで、チュッチェフ、ドストエフスキーからユーラシア主義、プラトーフ、フォードロフの関係について考察し、その成果を論文として発表した。2) 「ドストエフスキーと東方キリスト教」というテーマで研究発表を行い、それに関連する作品の翻訳に従事した。

⑦研究分担者斎藤：1) 国や地域の境界を越えて創作を続けるラテンアメリカの作家たちの越境者としての詩学を研究、その成果としてアルベルト・ルイス・サンチェスの小説を翻訳、刊行した。2) スペインのセルバンテスの作品の他言語による翻案を研究、シンポジウムでその成果の一部を発表した。

⑧ 研究分担者竹村：1) スペインのピカレスク小説をめぐる新説の是非 2) 19世紀後半のラテンアメリカ知識人、ことにホセ・マルティの反米言説 3) スペイン近代詩人アントニオ・マチャードの詩における暗示的手法、の3点をめぐって研究し、その成果を論文として発表した。また、学会発表も行った。

⑨研究分担者村松：1) ダンヌンツィオの生誕150周年記念国際シンポジウムで新たな資料研究に基づく成果を発表 2) ガルドーネのヴィットリアーレ博物館で同年10月から日本で開催の展覧会のための出展品や資料を学芸員らと確認した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計30件）

① 竹村文彦、「怪物の内臓を腑分けする——キューバの独立運動指導者ホセ・マルティの「反米」——」、Odysseus 東京大学院総

合文化研究科地域文化研究専攻紀要、第 19 号、2015 年、p. 87-111(査読無し)

② 足立信彦、「女の死と再生— 性・所有・共同体 II—」、Odysseus 東京大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要、第 19 号、2015 年、p. 67-86 (査読無し)

③ 竹村文彦、「春の情景の背後にあるもの——A・マチャードの詩篇《ホセ・マリア・パラシオへ》をめぐって——」、清泉女子大学人文科学研究科紀要、第 36 号、2015 年、p. 13-31 (査読有り)

④ Mariko Muramatsu, *Lingua e territori. Esperienze a confronto: Italia e Giappone, L'Italiano dei territori e l'Italiano del futuro*. Atti della XIIa Settimana della Lingua Italiana nel Mondo, a cura di K. Gesuato, Istituto Italiano di Cultura, Tokyo, 2015, p. 34-46 (査読無し)

⑤ アルヴィ宮本 なほ子、After Shelley、Shelley Studies 日本シェリー研究センター年報』、第 22 号、2014 年、p. 11-12 (査読無し)

⑥ 石井洋二郎、「ナダール 時代を「写した」男 6 肖像写真家としての出発」、環、第 59 号、2014 年、p. 408-428 (査読無し)

⑦ 石井洋二郎、「ナダール 時代を「写した」男 5 パンテオン・ナダール」、環、第 58 号、2014 年、p. 316-338 (査読無し)

⑧ 石井洋二郎、「ナダール 時代を「写した」男 4 カリカチュアの方へ」、環、第 57 号、2014 年、p. 364-384 (査読無し)

⑨ 鈴木啓二、「二つの「鏡」— 『鏡子の家』と 11・25」、三島由紀夫研究、第 14 号、2014 年、p. 4-15 (査読無し)

⑩ 足立信彦、「略奪と陵辱— 性・所有・共同体 I—」、Odysseus 東京大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要、第 18 号、2014 年、p. 9-30 (査読無し)

⑪ 竹村文彦、「『ラサリーリョ・デ・トルメスの生涯』に〈概略〉はあったか? ——ロサ・

ナバーロ・ドゥランの作品解釈を検証する——」、Odysseus 東京大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要、第 18 号、2014 年、p. 51-69 (査読無し)

⑫ Mariko Muramatsu, D'Annunzio in Giappone, L'Officina del Vittoriale. Gabriele d'Annunzio 150 "Vivo, scrivo". Atti del convegno internazionale di studi, Silvana Editoriale, vol. 4, 2014, p. 183-191 (査読無し)

⑬ 中尾まさみ「移動する詩人／書き直される土地—シェイマス・ヒーニーと暴力」、現代詩手帖、3 月号、2014 年、p. 28-32. (査読なし)

⑭ Mariko Muramatsu、Superare l'angoscia della nostra epoca. Colloquio con Yasuo Kobayashi, Rivista di Psicologia Analitica. Nuova serie, vol. 36, 2013, p. 149-163 (査読無し)

⑮ 高岸冬詩、道家英穂、辻昌宏、中尾まさみ、「マクニースをめぐる文学史再考—ロマン派、モダニズム、アイルランド詩」、現代詩手帖、10 月号、2013 年、p. 64-81 (査読無し)

⑯ Masami Nakao, *The Wild Swans at Coole and Ireland of Its Time*, *Journal of Irish Studies*, vol. 28, 2013 年、p. 34-43 (査読有り)

⑰ 石井洋二郎、「ナダール 時代を「写した」男 3 政治と文学のはざままで」、環、第 56 号、2013 年、p. 360-377 (査読無し)

⑱ 石井洋二郎、「ナダール 時代を「写した」男 2 ジャーナリズムの青春」、環、第 55 号、2013 年、p. 298-314 (査読無し)

⑲ 石井洋二郎、「ナダール 時代を「写した」男 1 パリの悪童」、環、第 54 号、2013 年、p. 88-101 (査読無し)

⑳ 村松真理子、「天使のような貴婦人」の系譜、西洋中世研究、第 4 巻、2012 年、p. 98-124 (査読有り)

- ②① 齊藤文子、(書評) José R. Cartage na Calderón, *Masculinidades en obras: El drama de la hombría en la España imperial*、日本イスパニヤ学会会報、第19号、2012年、p. 20-21 (査読無し)
- ②② 石井洋二郎、「作家の肖像 9 シャルル・ボードレール」、*ふらんす*、第87巻12号、2012年、p. 58-61 (査読無し)
- ②③ 石井洋二郎、「作家の肖像 8 ジョルジュ・サンド」、*ふらんす*、第87巻11号、2012年、p. 54-57 (査読無し)
- ②④ 石井洋二郎、「作家の肖像 7 ヴィクトル・ユゴー」、*ふらんす*、第87巻10号、2012年、p. 54-57 (査読無し)
- ②⑤ 石井洋二郎、「作家の肖像 6 オノレ・ド・バルザック」、*ふらんす*、第87巻9号、2012年、p. 54-57 (査読無し)
- ②⑥ 石井洋二郎、「作家の肖像 5 スタンダール」、*ふらんす*、第87巻8号、2012年、p. 54-57 (査読無し)
- ②⑦ 石井洋二郎、「作家の肖像 4 ドウニ・ディドロ」、*ふらんす*、第87巻7号、2012年、p. 54-57 (査読無し)
- ②⑧ 石井洋二郎、「作家の肖像 3 ジャン=ジャック・ルソー」、*ふらんす*、第87巻6号、2012年、p. 54-57 (査読無し)
- ②⑨ 石井洋二郎、「作家の肖像 2 モリエール」、*ふらんす*、第87巻5号、2012年、p. 54-57 (査読無し)
- ②⑩ 石井洋二郎、「作家の肖像 1 デカルト」、*ふらんす*、第87巻4号、2012年、p. 86-89 (査読無し)

[学会発表] (計23件)

- ① 竹村文彦、「妻の病と死をめぐるA・マチャードの詩篇を読む」、2014年度清泉女子大学人文科学研究部研究懇話会第6回、2014年12月5日、清泉女子大学 (東京都・品川区)
- ② 安岡治子、「『ドストエフスキー著『1864年メモ』および『おかしな人間の夢』について』、東方教父をめぐるミニ・シンポジウム (3)、2014年11月10日、東京大学駒場キャンパス (東京都・目黒区)
- ③ Mariko Muramatsu, L' amore dannunziano nella letteratura giapponese-da Ikuta Choko a Mishima Yukio, 第38回伊日研究学会、2015年9月18日、Università del Sale nto(サレント大学)(レッツェ市、イタリア)
- ④ 齊藤文子、「人びとの記憶を書きかえる—セルバンテス『模範小説集』における試み」、東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻シンポジウム、2014年6月28日、東京大学駒場キャンパス (東京都・目黒区)
- ⑤ 鈴木啓二、「記憶の場/詩人の記憶—ゴール人起源の言説をめぐる」、東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻シンポジウム、2014年6月28日、東京大学駒場キャンパス (東京都・目黒区)
- ⑥ 中尾まさみ、「James K. Baxter と Dylan Thomas—「破滅型」詩人像の造形と近代社会」、日本英文学界第 86 回全国大会、2014 年 5 月 25 日、北海道大学 (北海道・札幌市)
- ⑦ 村松真理子、「ダンヌンツィオ—人生・テキスト・世界」、京都大学総合博物館特別展記念連続講演会、2014 年 1 月 26 日、京都大学総合博物館 (京都府・京都市)
- ⑧ 村松真理子、「ダンヌンツィオに夢中だった頃」イタリア研究会例会講演会、2013 年 12 月 20 日、上野文化会館 (東京都・台東区)
- ⑨ Mariko Muramatsu, D' Annunzio innovatore dei costumi e della lingua. 第 13 回世界イタリア語週間「イタリア研究、発展と革新」、クルスカ学会・イタリア外務省主催、2013 年 11 月 10 日、イタリア文化会館 (東京都・千代田区)
- ⑩ 村松真理子、「ダンヌンツィオに夢中だった頃—国際詩人の軌跡と Mishima が交わるとき」企画と司会、東京大学駒場博物館「ダンヌンツィオに夢中だった頃—カブリエーレ・ダンヌンツィオ (1863-1938) 生誕 150 周年記念展」国際シンポジウム、2013 年 11 月 2 日、東京大学教養学部 (東京都・目黒区)
- ⑪ 村松真理子、「タブッキの記憶—イタリア広場から」、イタリア文化会館記念シンポジウム、「タブッキ 水平線の彼方へ」、2013 年 10 月 20 日、イタリア文化会館 (東京都・千代田区)
- ⑫ 竹村文彦、「『ラサリーリョ・デ・トルメスの生涯』の作者特定をめぐる近年の研究動向」、日本イスパニヤ学会第 59 回大会、2013 年 10 月 13 日、上智大学 (東京都・千代田区)
- ⑬ Masami Nakao, Tollund Man in the Urban Landscape: Writing about Atrocity in Seamus Heaney's Poems、国際アイルランド文学協会 (IASIL) 年次大会、2013 年 7 月 26 日、クイーンズ大学 (ベルファスト、連合王国)
- ⑭ 中尾まさみ、(シンポジウム) 「モダニズム再考—マクニース詩評価の文学史的意

義を考える」、日本英文学会関東支部第7回大会、2013年6月22日、明治大学（東京都・千代田区）

⑮ Mariko Muramatsu、D' Annunzio aspettato in Giappone, "Festa dell' inquietudine"（「不安をめぐるフェスタ」Circolo degli Inquieti 文化財団主催シンポジウム）、2013年6月1日、フィナーレ・リーグレ市文化ホール（リーグレ市、イタリア）

⑯ アルヴィ宮本なほ子、「イギリスロマン主義における〈宗教〉と〈啓蒙〉——第一世代と第二世代の間」、日本英文学会第85回全国大会、2013年5月25日、東北大学（宮城県・仙台市）

⑰ 中尾まさみ、「『クールの野生の白鳥』を読む」、アイルランド文学研究会、2013年3月23日、星陵会館（東京都・千代田区）

⑱ Mariko Muramatsu、D' Annunzio in Giappone, Convegno Internazionale per i 150 anni dalla nascita di Gabriele D' Annunzio[ガブリエレ・ダンヌンツィオ生誕150年国際シンポジウム]、2013年3月13日、ペスカーラ市AURUM会議場（ペスカーラ市、イタリア）

⑲ Mariko Muramatsu、Lingua e territori. Esperienze a confronto: Italia e Giappone, クルスカ学会・イタリア外務省主催第12回世界イタリア語週間、2012年11月11日、イタリア文化会館（東京都・千代田区）

⑳ アルヴィ宮本なほ子、「P. B. Shelleyとイタリアの新しい声」、イギリス・ロマン派学会第38回全国大会、2012年10月20日、熊本大学（熊本県・熊本市）

㉑ 中尾まさみ、*The Wild Swans at Coole and the Ireland of Its Time, The 53rd Yeats International Summer School*、2012年8月2日、Hawk's Well Theatre（スライゴ市、アイルランド）

㉒ 村松真理子、「タブッキの残したもの」、イタリア研究会、2012年7月24日、東京文化会館（東京都・台東区）

㉓ 石井洋二郎、「『感情教育』のパリと『マルドロールの歌』のパリ — ブルデュールを媒介項として」、日本フランス語フランス文学会2012年春季大会ワークショップ、2012年6月3日、東京大学（東京都・文京区）

[図書]（計9件）

① 鈴木啓二（分担執筆）、世界思想社、『十九世紀フランス文学を学ぶ人のために』、201

4年、320頁（53-70）

② 石井洋二郎他（監修）、日経ナショナルジェオグラフィック社、『ビジュアル教養大事典』、2014年、512頁

③ Mariko Muramatsu（分担執筆）、Perugio, Valsugrana, *Gabriele D'Annunzio aviato re*, a cura di N. Capra, L. Gabrielli, Giordano Bruno Guerri, 386頁（130-133）.

④ 村松真理子（分担執筆）、放送大学教育振興会、『ヨーロッパ文学の読み方—古典篇』、2013年、332頁（143-192, 305-310）

⑤ 村松真理子（分担執筆）、放送大学教育振興会、『中世・ルネサンス文学』2013年、324頁（59-88, 127-146, 184-203）

⑥ 村松真理子（単著）、角川書店、『謎と暗号で解くダンテ「神曲」』、2013年、251頁

⑦ 足立信彦（分担執筆）、信山社、『東大教師青春の一冊』2013年、283頁（270-273）

⑧ 安岡治子（分担執筆）東京大学出版会、『ユーラシア世界第1巻＜東＞と＜西＞』、2012年、244頁（19-50）

⑨ 石井洋二郎（分担執筆）、『UP』編集部、東京大学出版会、『東大教師が新入生にすすめる本』、2012年、273頁（9）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石井洋二郎（YOUJIRO ISHII）
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：90134402

(2) 研究分担者

中尾まさみ（MASAMI NAKAO）
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：60207719
アルヴィなほ子（宮本）（NAHOKO MIYAMOTO ALVEY）

東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：20313174

鈴木啓二（KEIJI SUZUKI）
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：70187722

足立信彦（NOBUHIKO ADACHI）
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：10175888

安岡治子（HARUKO YASUOKA）
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：90210244

齊藤文子（AYAKO SAITO）
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：20240731

竹村文彦（FUMIHIKO TAKEMURA）
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号：60197332

村松真理子（MARIKO MURAMATSU）
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：80262062